

説教 『夢を見、幻を見、立ち上がる』山本 護 牧師
聖書 ヨエル書 3：1～5／ルカによる福音書 2：33～38

処分場建設反対運動に深く関わったことで、村の長老からよく昔話や俚諺を聞いた。村では総じて年寄りが敬されるが、ただ礼節の慣習からではなく、「老い」には敬したくなる何かがあるのだと思う。なかには政治力を使って隠然と画策する老人もいるが、彼らは高齢なだけで「年寄り」ではない。

聖書の時代、高齢者は「神の祝福」を受けていると見なされた。幼子イエスを聖別してもらうために神殿へ詣でたヨセフとマリアは二人の年寄りと出会う。一人は老シメオン(2:26)、もう一人は老女アンナ(2:36)。シメオンには聖霊が留まり(2:25)、幼子イエスのことを「万人の救い(2:31)、異邦人を照らす啓示の光、イスラエルの民の誉れ(2:32)」と証言した。アンナは神に仕える女預言者で(2:37)、幼子イエスに「近づいて来て神を賛美し」、救いを待ち望む人々にそれを知らせた(2:38)。シメオンの生涯はメシア(救い主)を待つことだったし(2:26)、アンナの長寿もそのためのものであった(2:37~38)。

イエスはまだ嬰兒で、自らがメシア(キリスト)だと表明することはありえない。だから「神の祝福」を受けている年寄りがそれを証言した。聖霊に満たされ(2:25)、非常に年をとった(2:36)二人がキリストの口となったのだ。イエス亡き後、弟子たちがキリストの「からだ」を成長させたごとくに(エフェソ 4:16)。それでは、キリストの口となったシメオンらは、救いの到来をどのように表現したか。

「御覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人を、倒したり立ち上がらせたりするために定められ、また、反対を受けるしるしとして定められている(ルカ 2:34)」。そしてマリアを祝福しながら、「あなた自身も剣で心を刺し貫かれる=多くの人々の心にある思いがあらわにされるために(2:35)」と告げた。「倒し」「反対を受け」「剣で心を刺し貫かれる」苦難が、なぜ祝福なのか。そんな苦しみがどう神の賛美につながるのか(2:28,38)。ある程度の人生を過ごし、静かに自らを顧みれば想像できると思う。これまでの苦しみが自分に何を生じさせたか。倒されることで(2:34)、私たちの何が啓かれたか。

イエスは民を「倒したり立ち上がらせるために定められた」。岩波訳には「多くの者の倒れと起き上がりを目指して」という直訳の註がある。実際「起き上がる」とことと「倒れる」ことは不可分だ。マリアはイエスの十字架において、心を剣で刺し貫かれるほどの「倒れ」を経験する。世の母たちの先頭で倒れ、立ち上がった。こうして、イエスの母であるマリアは、私たちにとっての母となった。

世の情勢も、私たちの個別な事情も「倒される」、ことがある。苦しみはなるべく避けたいが、「心が刺し貫かれる」倒れが生じたとしても、神は私たちを必ず「立ち上がらせる」。世に到来した幼子イエスは、そのしるし(2:34)。私たちの地平において認識しうる、生きて働かれる神の真実なのだ。

「その日、わたしは、奴隷となっている男女にもわが霊を注ぐ。天と地にしるしを示す(ヨエル 3:2~3)。「倒される」ことは恐ろしいな黙示表現になるが(3:3~4)、苦難は「立ち上がる」ために不可欠な備え(3:5)。私たちは聖霊を受け(3:1)、永遠の真実にむかって立ち上がる。そして「老人は夢を見、若者は幻を見る(3:1)」。幻想であるどころか、通俗的な現実よりもいっそう深い現実、真の救いを見る。



【おまけのひとこと】

平穏は劣化していく 倒され 立ち上がり 平穏が更新される あたかも自然の生成を見るよう
神は生きて働き給う 個別に倒し 個別に立ち上がらせ 世の全体に組み合わせ 御心を実現し給う